

人と人の心をつなげる自転車

岡部 達美

私の家の近くには、袖すり坂、五味坂という険しい坂があります。特に、五味坂は急で自転車に乗っておりる時も、自動車に乗っている時さえも、

「ジェット・コースター。」

と叫びたくなるような急な傾斜です。私は、この間、この坂で、ひとりのおばあさんに呼びとめられました。

「まあ、お嬢ちゃん。これから遊び。」

私は、自転車を止めました。私は、私のおばあさんを思い出ししました。足腰が悪くなって十年近く、遠出ができないおばあさんです。何だか、話しかたがよく似ていて、時間が止まってしまったような気がしました。

「はい、友だちと児童館で待ち合わせをしています。今日は、十人位になりそうです。」

私は、大きな声でゆっくり話しました。

「あっそう、それは、楽しそうね。」

私は、この時、初めて、おばあさんの後ろに、大きな紙袋が二つあるのに気づきました。しかも、手で持つところがとれていません。

「この袋は、おばあさんのですか。」

「ええ、珍しく、デパートに行ったのはいいのだけれど、持って運んでいるうちに、切れちゃったのよ。」

私は、思い切って聞いてみました。

「おばあさんのお宅は、近くですか。」

「ええ、あの信号をわたって左に行くの。」

「美術館の近くですか。」

「そう、お嬢ちゃん、美術館を知ってるの。」

「はい、千住博さんの絵を、前に見たことがあります。」

「あっ、私も。あの牛乳をこぼしたような絵。」

話は、どんどん広がっていきました。私は、ずっと立って話しているおばあさんが、かわいそうになって来ました。

「おばあさん、よかつたら、私の自転車のカゴに荷物をのせませんか。」

「えっ、だって、お嬢ちゃんの方向と逆よ。」

「だって、おばあさんの話すごくおもしろくて、もっと聞きたいのです。」

「あら、私も。私たち気が合うのね。それじゃあ、おことはに甘えて。」

「うん。」

カゴにちまようこの荷物が入りました。私たちは、それから、たぶん、ふつうに歩いたら十分位の道を、話しては止まり、また話し、ゆっくり歩いていきました。私は、その時、気づきました。自転車は、人と人の話を広げてくれる乗り物だと。そして、人と人との心のつながりを深めてくれる乗り物だと。

その後、おばあさんとは、電話で話したり、たまに会って、遊んだりしています。昔、おばあさんが若かった頃の話も、すぐくおもしろいです。そして、そんな話を聞く度に、たまにしか会えない、千葉の私のおばあさんを思い出しているのです。そして、こう感じられるのも、自転車のおかげだと思っています。